

# バンクーバー冬季五輪銀メダル 穂積雅子(23)さんに 市民栄誉賞を贈呈

バンクーバー冬季五輪スピードスケート女子団体追い抜き（パシユート）で銀メダルに輝くなどの活躍をした穂積雅子さんに、3月28日「千歳市民栄誉賞」を贈呈し、栄誉をたたえました。



市民栄誉賞を手に喜びの表情を見せる穂積さん。

穂積さんは、福島県生まれ。2歳から千歳で育ち、日の出小学校・青葉中学校を経て駒澤大学附属苫小牧高校に進学。卒業後、ダイチ株式会社に入社し、現在に至っています。小学生時代から千歳スピードスケート少年団で練習を重ね、特に社会人になってからは一段と実力をつけ、平成20年のワールドカップベルリン大会で3位、世界オーラウンドスピードスケート選手権大会で総合4位となるなど、日本女子スピードスケート中・長距離の中心選手として注目を集めてきました。

そして、今年2月に行われたバンクーバー冬季五輪では、女子団体追い抜き（パシユート）で見事に銀メダル、3000メートルで6位入賞、5000メートルで7位入賞と日本の女子スピードスケート界の歴史に残る大活躍を成し遂げました。

穂積さんは、この活躍を通じて千歳の青少年をはじめたくさんの市民に希望と活力を与え、スポーツの振興に大きく貢献されました。

市はこの栄誉をたたえ、3月28日に「千歳市民栄誉賞」を贈呈しました。

山口市長から市民栄誉賞を贈られる穂積さん。



この賞は、文化、スポーツ、そのほかの分野で市民の誇りとなる業績をあげ、市民に希望と活力を与えた個人または団体を表彰するものです。これまでに、昭和63年のカルガリー冬季五輪スピードスケート女子5000メートルで8位に入賞した房野抄子さんと平成3年に北海道大学第14代学長に就任された廣重力さんの2人に贈呈しており、穂積さんは3人目の受賞となります。

贈呈式では、市長から表彰状とオリンピッククドで活躍したときの写真をデザインした記念品を手渡され、穂積さんは、「たくさんの方の支援で銀メダルがとれました。感謝の気持ちでいっぱいです」と言葉を述べました。